東京都市大学における女性研究者支援の取り組み①
工学系総合大学の男女共同参画リーディング校を目指して

東京都市大学准教授・女性研究者支援室長　小川　順子

■「工学系イノベーションの男女共同参画モデル」事業の背景と目的

文部科学省が、平成十八年度から実施している「女性研究者支援モデル育成」事業の中で、女性研究者の採用割合などが低い分野である理学系、工学系、農学系など自然科学系の研究を行う優れた女性研究者に対するモデルとなる先進的取り組みの普及・定着が挙げられました。この理念は、東京都市大学（以下、本学）の目指すところでもあったことから、国と一体となった事業推進を図るため、平成二十一年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」に、「工学系イノベーションの男女共同参画モデル」のテーマで応募しました。

平成二十年度における全学の女性研究者比率は一〇・八％、中でも工学系は、四・七％と、非常に低い割合であり、女性研究者の准教授や講師の採用・昇格を積極的に進めていこうとしていたという背景もありました。

応募の結果、国としても「特に工学系に一層注力すべき」との判断により、本学のテーマが高い評価を受け、採択されることになりました。本学の、工学系総合大学である特徴から、工学分野における女性研究者割合の引き上げを図るという姿勢を明確に打ち出したことが採択に繋がったのです。いうまでもなく、男女共同参画という言葉通り、この事業は最終的には男女を問わずすべての学科、教職員に普及することを目指しています。

■「工学系イノベーションの男女共同参画モデル」事業の概要

本事業では、男性主体であった工学系の風土の中で、女性研究者や技術者の有用性を認め、必要な人材であると評価される機会を増やすとともに、ワーク・ライフ・バランスを保ちながら仕事をすることができる環境整備を中心に行います。方向を示すためにビジョンを掲げ、具体的には、以下の五つの事業を遂行していきます。

①プラス1プロジェクト

女性研究者ゼロの学科をゼロにすることを目指します。女性研究者がいなければ、女性研究者支援は絵に描いた餅にすぎませんし、男女共同参画も進みません。活動スタート時、女性研究者ゼロの学科として、工学部機械工学科、機械システム工学科、電気電子工学科、建築学科、都市工学科、情報ネットワーク工学科、経営システム工学科の七学科があり、特にこれらの学科に女性研究者を配属することは、大きなチャレンジとなっていました。

②広がれ！理工系大プロジェクト

理工学系大学は女性研究者が少なく男女共同参画を推進する担い手が不足しているのが現状です。このため、東京都市大学が中心となり大学間の女性研究者間のネットワークをつくり、相互に人材を有効に活用するなど、男女共同参画の支援・啓発・広報活動を進めました。

③科学とともだちプロジェクト

近年、男女を問わず全就学世代にわたって理科離れが懸念される中で、子どもたちが理科に興味を持ち、理工学の分野への進路を示してあげることが、この事業を進めていくベース部分の強化になります。このため、幼稚園から大学までの一貫した教育環境を持つ本学の特徴を活かし、東京都市大学等々力中高等学校、塩尻高等学校と連携し、中等教育の場で、理科の面白さや身近な生活における理科の知識の必要性などを実験や講義を通して支援しました。特に、理工系進路選択割合が少ない女生徒への指導には注力してきました。併せて、生徒たちの理工系進学への動機付けにも役立つように、本学卒業生の中でも理工系で活躍している人々も紹介しています。

④ロールモデル発掘プロジェクト

女性研究者や技術者が少ないため、女性研究者の仕事や子育て等での悩みや解決方法を共有する機会がほとんどないのが現状です。このため、本学卒業生で、研究者や技術者として学術分野や企業で活躍している先輩を紹介し、相互に活用できるネットワークを作りました。ネットワークでの情報交換は、本学学生をはじめ理工系進学を目指す中高生などにロールモデルとして紹介しています。

キックオフシンポジウム

⑤基本的な環境整備

本事業を推進していくためには、まず、学内の教職員や学生をはじめ本学卒業生に本事業とその趣旨について知っていただくこと、さらに興味を持って周りに目を向けていただくことが必要不可欠ですので、普及啓発のために、HPなどの他、シンポジウム、セミナー、講演会の開催などに取り組んでいます。事業の開始に当たり、二〇〇九年十月三日、キックオフシンポジウムを開催いたしました。

また、事業を定着させていくためには、それを支援する制度や具体的方策を講じる必要があります。理工系女性研究者は実験など職場でしかできない研究が多いため、妊娠・産休・育児休暇などにより研究の中断を余儀なくされ、また、子育てとの両立の難しさが生じたりし、女性研究者が研究を継続できない大きな理由の一つとなっています。この方策として、研究者支援員派遣の制度化を進めました。この制度は、将来、介護休暇や男性教員への適用拡大が期待されるところです。

ホームページ

この他、学内ニーズの掘り起こしや、女子学生への相談、支援体制の整備や意見交換会の開催なども進めます。またこの活動を学内に周知し、教職員、学生との双方向の意見交換を行う場として、ホームページやニューズレターを積極的に活用しています。

次回から各プロジェクトの具体的な進展状況を報告いたします。まず「プラス1（ワン）プロジェクト」と「広がれ！理工系大プロジェクト」について紹介いたします。